

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24年 3月 31日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530187

研究課題名（和文） ホートリーの総合社会科学：その哲学・社会哲学・経済学の体系的研究

研究課題名（英文） Hawtrey's Synthetic Social Science: A Systematic Study of His
Philosophy, Social Philosophy and Economics

研究代表者

平井 俊顕（HIRAI TOSHIKI）

上智大学・経済学部・教授

研究者番号：60119112

研究成果の概要（和文）：当該研究計画は、戦間期ケンブリッジを代表する経済学者の一人であるラルフ・ホートリーについて、彼が哲学・社会哲学・経済学を総合的にとらえようとした社会学者であることを明らかにしようとするものである。

最初に手がけたのはホートリーの社会哲学をめぐる研究である。既存の著作を考慮に入れながら、主として彼の未完の著 *Right Policy* を中心に考察をめぐる。その研究成果は、History of Economics Society の年次大会などで報告をした後、“Exploring Hawtrey's Social Philosophy — through His Unpublished Book, *Right Policy*, *Journal of the History of Economic Thought*, 34-2, 2012”として公表することができた。

次に手がけたのは、ホートリーの哲学をめぐる研究である。主として彼の未刊の哲学書 *Thought and Things* を中心に考察をめぐる。現在、関連論考を執筆中であり、近い将来、国際学会での報告とジャーナルへの投稿を行う予定をしている。

なお、ホートリーの経済学については、当該研究計画以前に研究を行ってきた。したがって、哲学の領域での研究が一段落した後、全体をまとめるかたちで総合社会学者ホートリーの全体像を明かにするという最終目的に向かうことにしたい。

なお付随的な仕事であるが、上記の未刊の著作2点を、何らかのかたちで公刊することを考えている。これまでケンブリッジ大学チャーチル・カレッジならびに公文書館（PRO）所蔵のホートリー文書を多数収集してきており、それらをも考慮に入れながら、公刊できればなお一層望ましいと考えている。

研究成果の概要（英文）：This project is aimed at clarifying how Ralph Hawtrey – one of the leading economists in the inter-war period – tried to synthesize philosophy, social philosophy and economics.

First, I examined Hawtrey's social philosophy. I tried to clarify it, mainly focusing on his unpublished book, *Right Policy* while taking his published books in this field into consideration. After having reported the research outcome at the History of Economics Society Annual Conference and so forth, I published “Exploring Hawtrey's Social Philosophy — through His Unpublished Book, *Right Policy*”, *Journal of the History of Economic Thought*, 34-2, 2012.

Then I examined Hawtrey's philosophy mainly through his unpublished book, *Thought and Things*. I am writing a paper on it and have a plan to report and/or publish it in some way or other.

Concerning Hawtrey's economics, I had examined it before this project. Therefore, once an philosophical examination is over, I would proceed to the final goal of clarifying Hawtrey as synthesizer of social science.

Additionally, I am thinking of publishing the two above-mentioned unpublished books in some way

or another, preferably including some invaluable papers and/or material concerned kept at Churchill College, Cambridge and the Public Record Office.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：経済学史、理論経済学

科研費の分科・細目：経済学、経済学説・経済思想

キーワード：ホートリー、社会哲学、ケンブリッジ、哲学、経済学、ケインズ、ムーア、ロビンズ

1. 研究開始当初の背景

- (1) 私は、長年にわたって 20 世紀前半の主導的な経済学者 J.M.ケインズを、その経済学の形成過程に主たる焦点をおきつつも、一方で彼の経済政策、社会哲学 (市場社会観) 等を解明すること、他方で彼に先行する時代 (例えばヴィクセル)、ならびに同時代 (例えば、ピグー、ホートリー、ロバートソン) の経済学の状況、それに彼の生きた時代のイギリス経済・世界経済の状況にも注意を払いつつ、研究を遂行してきた(『ケインズの理論』[東京大学出版会、2003 年]、*Keynes's Theoretical Development* [Routledge, 2007] 等はその研究成果である)。
- (2) 上記の研究を通じて私を惹きつけることになったのがホートリーである。ホートリーは、何よりもまず、ケンブリッジにあって貨幣的景気変動論を展開したエコノミストとして、今日広く知られている。また、彼はいわゆる「大蔵省見解」の理論的基盤を提供したエコノミストとしても知られる。さらに彼は、ケインズの新しい経済学に竿さす者としても理解されてきた (もっとも、この最後の点には大きな誤解が認め

られる。ホートリーは、『貨幣論』のケインズにたいし、自らのスタンスから厳しい批判を展開しており、しかもそれは、『一般理論』の論点を先取りするところがあったからである)。

しかしながら、ホートリーの経済学にあっても、これまでに刊行された成書は Deutscher によるもののみである。それ以外の研究は、ホートリーの経済学のある側面に限定されており、ましてや社会哲学、哲学への配慮はほとんどなされてきていない。これが当該研究計画を考えるに至った背景である。

2. 研究の目的

- (1) 当該研究計画は、戦間期を代表する経済学者の一人であるラルフ・ホートリーについて、じつは彼が哲学・社会哲学・経済学を総合的にとらえるようとした社会学者であることを明らかにしようとするものである。
- (2) 経済学者ホートリーについては、これでもいくつかの研究がなされてきている。だが、ホートリーが展開した社会哲学については、*Economic Problem* (1928) や *Economic Destiny* (1944) といった成書があるにもか

かわらず、(断片的なパンフレットの類しかない) ケインズの社会哲学とは対照的に、今日ではまったく忘れ去られている。さらに、ホートリーにはこの分野での未刊の書である *Right Policy: the Place of Value Judgements in Politics* [ケンブリッジ大学チャーチル・カレッジ所蔵] も存在する。これらの検討を通じて、ホートリーの社会哲学を解明すること、これが当該研究計画の第1の目的である。

- (3) ホートリーは、若き日より生涯を通じて哲学に深い関心を寄せていた。彼の社会科学体系を知るうえでは、彼の哲学がどのようなものであったのかは、どうしても追究しなければならない課題である。

彼は生前に明確な哲学的著作を残してはいないため、彼の哲学が、社会哲学以上に知られていないのは止むを得ないところである。この点でも、ケインズにあっては、1980年代から、哲学者ケインズをめぐる研究が多くの学者によって精力的になされてきたのとは対照的である。

しかし、ホートリーにはこの分野での未刊の著 *Thought and Things* [ケンブリッジ大学チャーチル・カレッジ所蔵] が存在する。この研究を通じ、ホートリーの思想の根底をなす哲学がいかなるものであったのかを解明すること、これが当該研究計画の第2の目的である。

- (4) ホートリーの経済学については、私は当該研究計画の前にすでに研究を行っている。したがって、上記2つの目的が遂行された後には、ホートリーの経済理論、社会哲学、哲学が、彼にあってどのように位置づけられ、関連づけられていたのか、つまりホートリーの総合社会科学とはどのようなものであったのかを究明すること、これが当該研究計画の第3の、

そして究極的な目的である。

- (5) この研究の独自性は、これまで完全に忘れ去られているホートリーの社会哲学がいかなるものであるのかを、とりわけ未刊の書 *Right Policy* を通じて復権する点、またまったく知られていないといってよいホートリーの哲学を、この分野の唯一の書であり、かつ未刊の *Thought and Things* を通じて解明する点、そしてそれらを通じて、ホートリーの経済理論自体が新たな視点から解明されていく点、さらにはそれらを踏まえて、ホートリーがこれら3つの領域をいかに関連づけ、体系づけようとしていたのかを明らかにする点、に求めることができる。これらのことはホートリーが、ケインズ、ロバートソン、ピグーと並ぶケンブリッジの重要な経済学者であるという評価があるにもかかわらず、いまだなされたことのない試みであるといえよう。

- (6) 当該研究計画には、上記に付随するもう1つの重要な課題がある。上掲の2つの未刊の著作 *Right Policy* と *Thought and Things* の刊行である。両著作とも、完全とはいえなくても、ほぼ完成状態にあり、これを刊行することは、ホートリーの総合的な社会科学体系を理解するうえでのきわめて重要な資料の公開を意味する。したがって、ホートリー研究、ひいてはケンブリッジの社会科学の特性を解明していくうえでも、このことはきわめて意義深い、と私は考えている。

3. 研究の方法

具体的に行ったことを示すのが、研究方法の最も分かりやすい説明になるであろう。

- (1) 平成21年度

当該年度は、主としてホートリーの社会哲学を対象を絞り、ホートリー自身が刊行している社会哲学関連の著作や論文をも考慮に入れつつ、とりわけ未刊の書 *Right Policy* に焦点を合わせながら研究を進めた（9月に開催された *History of Economic Thought* の年次大会（マンチェスター大学）では、その成果を発表した）。

年度の終わりには、上記の研究をほぼ論考としてまとめ、*Journal of the History of Economic Thought* への投稿を行うことにした。

(2) 平成 22 年度

当該年度の最大の目的は、ホートリーの哲学の探究であった。そのためホートリー唯一の哲学書であり、かつ未刊の著作である *Thought and Things* をもとに研究を進めた。

年度の終わりには、上記の研究をほぼ論考としてまとめることができた。

3月には、ケンブリッジ大学チャーチル・カレッジに所蔵されているホートリー文書の調査を行った後、グラーツ大学で開催されたクルツ教授記念コンファランスでホートリーの社会哲学についての報告を行った。

(3) 平成 23 年度

当該年度では、最後の領域である、ホートリーの経済学に焦点を合わせた。これを一番最後にもってきているのは、ある程度の研究をしてきていたからである。

Journal of the History of Economic Thought に投稿していた論考をめぐり、いくどかのやり取りが行われていたが（レフェリーへのレスポンスと書き直し作業を含む）、同誌への掲載が決定した。

そのうえで、当該年度では、当該研究計画の究極目的である、ホートリーの哲学・社会哲学・経済学について、それらがどのように

関連付けられ、体系化されているのかを究明することに重点をおくように努めた（これは現在も進行状態にある）。

なお、これらの期間を通じ、関連する研究報告を海外の学会（主として *European Society for the History of Economic Society* と *History of Economics Society*）で計6回は行っている。

4. 研究成果

- (1) ホートリーの未完の著 *Right Policy* をめぐる研究の成果は、『市場社会論のケンブリッジ的展開』（平井俊顕編、日本経済評論社、2009年）の第5章「ホートリー — 未刊の著『正しい政策』考」、および “Exploring Hawtrey’s Social Philosophy — through His Unpublished Book, *Right Policy*” *Journal of the History of Economic Thought*, 34-2, 2012 として公表されている。
- (2) ホートリーの未刊の哲学書 *Thought and Things* について、現在英文論考を執筆中であり、近く何らかのかたちで公表する予定である。
- (3) 同時に、*Right Policy* と *Thought and Things* については、そのデジタル化を行っており、それらを何らかのかたちで刊行する方向にもっていくことを考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- 1 Hirai Toshiaki International Design and the British Empire, *History of Economics Review*, 査読有 (forthcoming).
- 2 Hirai Toshiaki Exploring Hawtrey’s Social Philosophy — through His Unpublished Book, *Right Policy*, *Journal of the History of Economic Thought*, 査読有, 34/02, 2012 (forthcoming).

10.1017/S1053837209311025

[学会発表] (計 5 件)

- 1 Hirai Toshiaki The Welfare State in the Making, *History of Economics Society*, University of Notre Dame, Notre Dame, U SA, June 17, 2011.
- 2 Hirai Toshiaki International Design and the British Empire, *European Society for the History of Economic Thought*, Bogazici University, Istanbul, Turkey, May 21, 2011.
- 3 Hirai Toshiaki Hawtrey – On His Unpublished Book, *Right Policy*, History of Economic Thought, University of Manchester, Manchester, UK, September 3, 2009.
- 4 Hirai Toshiaki Hawtrey – On His Unpublished Book, *Right Policy*, *History of Economics Society*, University of Colorado, Denver, USA, June 27, 2009.
- 5 Hirai Toshiaki Exploring Hawtrey’s Social Philosophy , *European Society for the History of Economic Thought*, University of Amsterdam, Amsterdam, Netherlands March 27, 2009.

[図書] (計 5 件)

- 1 平井俊顕 『ケインズは資本主義を救えるか』昭和堂、2012年(近刊)。
- 2 平井俊顕監修『危機の中で<ケインズ>から学ぶ』作品社、2011年、pp.281.
- 3 平井俊顕編著：『どうなる私たちの資本主義』SUP上智大学出版、2011年、pp.220.
- 4 Hirai Toshiaki (Co-edited Book with two Professors) : *The Return to Keynes*, Harvard University Press, 2010, pp.314
- 5 平井俊顕編著：『市場社会論のケンブリッジ

的展開 – 共有性と多様性』、日本経済評論社、
pp.viii + 343、2009年。

[産業財産権]
○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]
ホームページ等

<http://blogs.yahoo.co.jp/olympass>

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
平井 俊顕 (HIRAI TOSHIAKI)
上智大学・経済学部・教授
研究者番号：60119112
- (2) 研究分担者
なし
- (3) 連携研究者
なし